

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年11月2日記入

基本目標	ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	24320
政策名(章)	第4章 美しいまちなみと良好な居住環境を創造します	評価担当部	企画部
基本施策名(節名)	第3節 身近な生活圏のみどり・公園の整備	評価担当課	企画政策課
施策名	みどりとオープンスペースの確保	課長名	長沢 博文

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

自然とのふれあいや憩いの場、さらには防災上の貴重な空間として、公園、広場、緑地等のオープンスペースを確保する。
 現総合計画策定時(平成10年度)と面積で比較すると、約22ha増(5.6%増)となっている。内訳は、「都市公園」が、約10ha増(5.8%増)、「緑地・緑道」は、約13ha増(15.8%増)、子どもの広場、ふれあい広場、雨水調整地広場、小・中学校校庭その他の「広場」は、約1ha減(1.0%減)となっている。
 なお、合併のより、津久井地域にも対象となる施設が存在するが、オープンスペースの考え方からすると、主に市街地におけるオープンスペースの確保に着目するべきであり、本評価は、旧市内のオープンスペースに限っている。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		1,140,340	H17年度に各公園整備事業が実施されているため、H14年度と比較して増加している。
人件費		72,933	
市民一人あたりの事業費	1,289	1,819	
合計	793,903	1,213,273	

*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

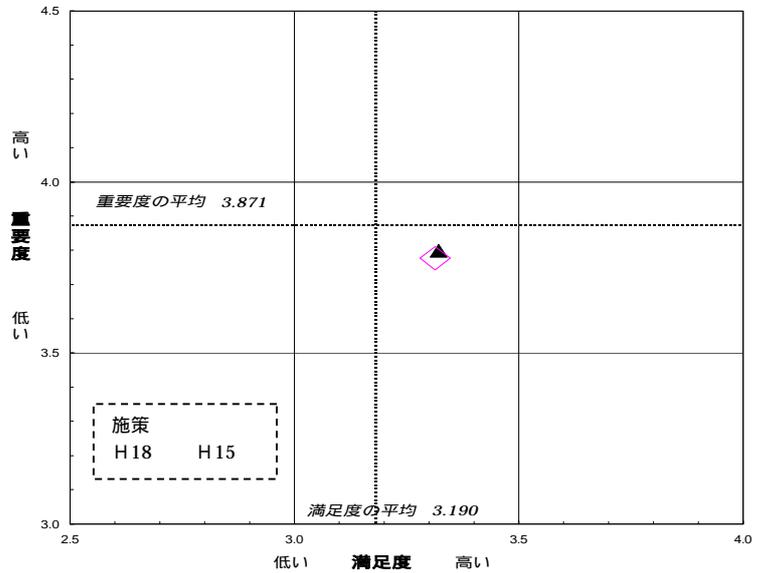
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	市民一人当たりのオープンスペース オープンスペース面積/市人口	オープンスペースの実質的充足度(オープンスペース面積/市人口)	6.61m ²	16
指標2				
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値			中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	7.00	6.59	19	6.80	21	7.00	実施計画(前期)において掲げた目標値を最終年度の目標値とする。
達成率	94.1%						
指標2							
達成率	#DIV/0!%						
指標3							
達成率	#DIV/0!%						
指標4							
達成率	#DIV/0!%						
指標5							
達成率	#DIV/0!%						

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.313で51施策の中で10番目。
 重要度は3.777で31番目である。
 改善要望度は - 0.1537で36番目である。
 年齢別にみると、満足度は70歳以上でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 重要度は50歳代以上で高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度、重要度とも施策の順位は前回調査と同様である。
 満足度の順位では、30歳代で前回調査より上がり、70歳以上で下がっている。
 重要度の順位では、60歳代で前回調査より大幅に上がり、70歳以上で下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	2	相模原麻溝公園管理運営事業、峰山霊園整備事業、ふれあい広場維持管理事業	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	2	峰山霊園管理運営事業、道保川公園管理運営事業、ふれあい広場整備事業	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	2	相模原麻溝公園管理事業、相模原北公園管理事業、峰山霊園整備事業、相模川自然の村公園管理運営事業、道保川公園管理運営事業	
合計		6	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	市街化・宅地化が進む中で、防災のための空間の必要性が高い。
解決策	有効的な配置に向け、関係各課の連携により事業を進めるとともに、大学や高校等の施設の活用について検討すべきである。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

構成事務事業が再掲のみであり、施策の成果を示すことが難しい。合併後の施策のあり方も考慮した中で、今後は施策体系、構成事務事業の見直しが必要である。	2次評価 B
---	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

